

開催地名	徳島県吉野川市
開催日時	令和5年11月7日(火) 14:00～16:00
開催場所	日本フネン市民プラザ 多目的室(大)
語り部	竹原 茂 (広島県三原市)
参加者	市防災対策課、自主防災組織 45名
開催経緯	<p>本市では、南海トラフ地震や吉野川の氾濫等の災害発生が想定されている。自主防災組織が活動を行っているが、災害発生時に活動した経験は少なく、災害発生時に自分たちがどのような活動を行えばよいか、具体的な内容がわからない構成員が多数を占めていることが課題となっている。</p> <p>大規模災害での活動体験及び防災に知見を有する語り部に講演していただき、自主防災組織の構成員が、自分で課題について考え、行動していただく機会を提供する。</p>
内容	<p style="text-align: center;">【市民の命と暮らしを守るために～あなたにとって防災とは～】</p> <p>(1) 三原市の移り変わり 三原市は、中世の地図と比べてもわかる通り、かなりの面積が海であった町と言える。新幹線や高速道路も通ることから今と昔ではかなり町の形も変わっている。ハザードマップを見てみると、三原市はほとんどが浸水区域となっており、1000年に1度の災害があれば、市はほとんど水没してしまうことが予想されている。</p> <p>(2) 平成30年7月豪雨災害 平成30年7月豪雨災害では沼田川が氾濫・破堤し道路(高くなっている道路)だけが残るほどの浸水被害となり、多くの家が全半壊した。この災害に於いて、県内では豪雨が降り始め、「大雨特別警報」が出るまでの約3時間で21名の命を奪っている。避難をするか迷い、避難できなくなってしまった方、避難しなかった方が被害を受けてしまった。災害時は一瞬の迷いが命取りになってしまう。 避難についての調査を行った際、ほとんどの回答者が「ハザードマップは見たことがない」、「自宅が土砂災害警戒地域だということを知らなかった」、「訓練には参加したことがない」という回答だった。 京都大学教授の矢守氏は、一人でも多くの市民の方に危機感を持ってもらい、避難してもらうためには、より具体的(いつ・どこに)に避難方法を示す必要があると述べている。そのために、行政は日頃からの地域関係構築や避難訓練等の事前準備が必要である。また、市民は日頃から避難場所の確認や行政からの情報をただ待つのではなく自主的に避難し、家族や知人に呼びかけることが大切である。</p> <p>(3) 避難をするタイミング テレビやラジオなどで、台風や豪雨が予想される場合は、あらかじめ避難の準備をしておく必要がある。また、警戒レベルというものがある。これにより、行政から避難勧告が発信される。レベル4になると避難指示が告げられるが、これでは遅い。なぜなら、レベル4は台風や豪雨が直面している状況だからだ。風が吹く前、雨が降る前に避難することが適切な避難と言える。</p> <p>(4) 三原市防災ネットワーク 現在、三原市防災ネットワークは自主防災会を始めとし13団体で構成されており、</p>

その中には福祉活動やFMラジオ局、ケーブルテレビ局も含まれている。ケーブルテレビでは河川ライブカメラなどで状況発信も行っている。ラジオ、テレビの情報は、災害時においてとても大切になる。課題として挙げたのは、不確かな情報は発信できないということだった。そこで三原市防災ネットワーク内の防災士ネットワークの協力を仰ぎ課題解決を行った。その方法は、防災士からリアルタイムで被害状況や避難所の情報を送らせ公共電波に配信する方法だ。

(5) 避難所運営

避難所運営においては現場を経験している外部ボランティアからの助言は有効的で、色々な場面で役に立った。更に若いパワーは大活躍する。中学生が友達や卒業生に声をかけ、ボランティアの輪が広がった。日に日に成長し、指示を出さなくても生徒自身が考え、より良い方法を見つけ出していく。高齢化エリアが多いが、若い人の意識が防災活動を活気づける。また男性だけではなかなか運営は進まなく、衛生面を含め炊き出しの流れ、パーテーション設置位置など衛生面を含め、本当に女性の力が大切である。

(6) 防災訓練

防災訓練では、平成 24 年から中学校と市民が合同で行っていたが、コロナ禍で中止している。この理由は「高齢化」だ。避難するにも、避難所を運営するにも、若い力は必ず必要となる。町全体の防災意識の底上げが、災害時に即戦力となる。また、多くの方が参加して、地域の防災マップを作成した。その防災マップをごみステーションなど主要施設やゴミを捨てに来る人が目にする目と共、学校入り口にも設置し子どもたちに避難所を理解させることにも役立っている。

最後にマザーテレサの言葉で、「平和の反対とは無関心である」とあるが、これは防災についても同じではないだろうか。



開催地より

平成 30 年 7 月豪雨災害の経験や地域防災ネットワークの活動内容など、実体験に基づき、豊富でわかりやすくご講演いただいた。

本市においても、災害発生時に自主防災組織と可能な限りスムーズに連携して対応できるように、平時の研修や訓練を充実させていきたい。